

2018.11 No. 41



佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号 TEL 0952-31-6511(代) 病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

「空飛ぶ医師団」の活動について



高度救命救急センター
センター長 阪本雄一郎

本院高度救命救急センターの重要な業務のひとつとして、国内・海外での災害で被災地からの要請が佐賀県にあった場合、DMAT(災害派遣医療チーム) 隊員として活動する災害医療があります。

本センターでは、佐賀県に拠点を置き、佐賀空港に災害支援専用機を配置する「NGO AIPAD Japan」(※アジア太平洋地域のNGOや経済界、政府が災害対応のために連携する「AIPAD」の国内組織)のメンバーとして、海外及び国内の災害支援に参加しております。本センターは、AIPAD Japanの連携パートナーであり、「空飛ぶ医師団」(※民間の捜索救助チームに医師や看護師等の医療関係者が加わり、被災地や紛争後の地域で救命活動を行う)の本発のプロジェクト「フュージョナルチーム」の活動を支援しております。



▲インドネシア ロンボク島

8月5日発災のインドネシア・ロンボク島地震では、8月7日には現地入りし、インドネシアNGOや台湾のパートナーチームの医師及び看護師等と連携して、避難生活をされている方々への医療活動をさせて



▲北海道 厚真町

いただきました。本センターからは2名の医師(阪本、太田)を派遣しております。また、9月6日発災の北海道胆振東部地震では、新千歳空港が一般機の乗り入れを閉鎖している中、AIPAD専用機で佐賀空港から北海道に向かい、本州ではいち早く、発災当日から現場活動をさせていただきました。本センターから2名の医師(三池、中山)を派遣しております。

佐賀大学としての国際貢献、国内災害支援に貢献していきたいと思っております。

光学医療診療部の活動内容



光学医療診療部
部長 江崎 幹宏

光学医療診療部では、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・内分泌内科、一般・消化器外科、小児科、呼吸器内科、総合診療科の医師が中心となり、消化管疾患、肝胆膵疾患、呼吸器疾患の内視鏡診療にあたっています。

内視鏡機器の進歩に伴い、食道、胃、大腸といった消化管の腫瘍性病変の診断における内視鏡の役割はますます重要となっております。さらには、若年者を中心に好発する炎症性腸疾患の増加、超高齢化社会に伴う出血性病変の増加と相俟って、小腸も含めた消化管疾患の内視鏡診断・治療の機会は増加しています。加えて、胆道結石除去や食道静脈瘤の治療などの内視鏡治療の機会も多く、当部門では年間5000例を超える内視鏡検査と約800例の治療

内視鏡を担当しています。このような内視鏡診療を取り巻く環境の変化のなか、県内を中心とした同一医療圏の中核施設として、正確かつ安全な内視鏡診療の実践をモットーに患者様ならびにご紹介いただいた医療機関の先生方にも満足していただける内視鏡医療の提供を目指し、日々の診療に励んでいます。



こどもたちの未来を守る、体に優しい外科治療



小児外科
診療准教授 山田 耕治

これまで佐賀県では、好生館が唯一の小児外科診療施設でしたが、佐賀大学病院に1昨年「こどもセンター」が開設され、小児科のみならず泌尿器科・脳神経外科・形成外科など、診療科の垣根を越えて小児に特化した診療が行われてきました。更に充実のため、昨年7月に着任して小児外科診療を開始しました。

中でも、当院のNICUは2009年に開設されたものの、新生児外科症例はこれまで好生館に搬送して当院の新生児科医が出張管理を行っていましたが、昨年7月以降、食道閉鎖症、横隔膜ヘルニア、腸閉鎖症、ヒルシユスプルング病、鎖肛など、既に10名を超える新生児外科症例の手術を含めた治療を当院で行っています。

術野の様子と術後1週間での創の状態

一般的な2-port LPEC	当科で行っている1-port LPEC
下腹部の創がやや目立つ	下腹部に創がなく、整容性に優れる。

診療科紹介

形成外科



診療科長 上村 哲司

我々形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足・悩みに対して、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質「Quality of Life」の向上に貢献し社会復帰を手助けする、外科系診療科の中の一専門領域です。2018年10月現在、7名のスタッフで診療にあたっています。

(特色・得意分野)

得意とする疾患は、外傷、先天異常や頭部・顔面変形、腫瘍、足病変、の治療です。
A) 外傷は、頬骨骨折、鼻骨骨折、上顎骨骨折などの顔面骨折や顔面の醜状瘢痕、熱傷では、新鮮熱傷、熱傷後の瘢痕拘縮、そして手指などマイクログリフジャーを用いた切断指の再接着術などを行っています。
B) 先天異常は、口唇裂などの口唇変形、小耳症や埋没耳などの耳介変形、クルーゾン病やアペール症候群などの顔面頭部の変形、手足では多指症、合指症などです。このたび2018年7月より頭と顔のかたち外来を開設しました。頭部・顔面の変形でお悩みの患者さんに対して、脳神経外科など他診療科とも連携の上、治療にあたっていく予定です。

C) 腫瘍は、皮膚癌の切除再建術、頭頸部領域の悪性腫瘍、舌癌、咽頭癌などの広範囲切除後の再建術や乳癌の切除後の形成再建術などを、マイクログリフジャーを用いた高度な組織移植術で行っています。
D) 2006年から当科を窓口にして、他の診療科(循環器内科、血管外科、糖尿病内科、腎臓内科、皮膚科、麻酔科など)と連携して、地域の足病変患者、特に糖尿病、透析患者の下肢救済と治療を戦略的に進めるためのAlliance for Salvaging and Healing Extremities (ASHE) プロジェクトを行っています。毎週足救済カンファレンスを開催し、足病変でお悩みの患者さんに対しての治療を行い、救済に力を入れています。



「空飛ぶ医師団」の活動について 阪本雄一郎

光学医療診療部の活動内容 江崎 幹宏

こどもたちの未来を守る、体に優しい外科治療 小児外科の紹介 山田 耕治

診療科紹介 上村 哲司

診療科紹介 上村 哲司

「SAGA SANTA SUMMIT 2018」公認サンタクロース12名が子どもセンター来訪



2階東病棟
看護師長 佐保 直子

10月10日(水)に「グリーンランド国際サンタクロース協会公認」のサンタクロースが佐賀大学医学部附属病院子どもセンターを訪れてくれました。

サンタさんは12月のクリスマスシーズンに備え、「SAGA SANTA SUMMIT 2018」のため佐賀県に訪れ合宿中でした。合宿では有田焼の窯元で煙突を登る訓練をし、嬉野市のテーマパーク「肥前夢街道」でプレゼントを枕元に素早く届けるための技術を習得。鹿島の干潟で漕ぎスキー体験からソリ操縦を学んだ後、私達の子供達31名に会いに来てくれました。

サンタクロースの一行と同行した佐賀PRキャラクター「壺侍(つぼざむらい)」は子供達、一人一人の病室を訪れプレゼントに加え元気と笑顔を届けてくれました。入院中の子供達は、突然の訪



▲病室訪問



▲プレイルームでのふれあい



▲佐賀PRキャラクター「壺侍(つぼざむらい)」

病院ボランティアを10年続けて思うこと



病院ボランティア 西森真理子

病院ボランティアを始めてちょうど10年目になります。仕事を退職して自分の好きな習い事をいろいろとしてみましたがどこか物足りず、何か人の役に立てることはできないかと考えていた時、ボランティア募集の張り紙を見たのが縁となりました。

佐賀大学医学部附属病院には子供たちがお世話になったこともあり、病院の広さに戸惑い、ドキドキしながらいろいろなお場所を探したことを覚えています。その時の思いが、今、役立っています。

へのお声かけなど様々です。昔の私のように病院の広さに不安になられないよう、丁寧な説明と明るいお声かけに努めています。今では来院される方から声をかけていただくことも多くなりました。皆様から「ありがとう」という言葉をいただく度に幸せな気持ちでいっぱいになります。感謝いたします。

(ボランティア募集のお問い合わせ先)
佐賀大学医学部経営管理課
電話 095213413309

日本糖尿病教育・看護学会の23rd JADEN AWARDを受賞しました。



総合外来看護部 藤井 純子

第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会に於いて一般演題発表で23rd JADEN AWARDを受賞しました。



がんゲノム医療を実施しています！

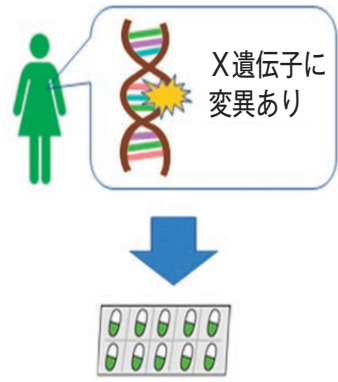


がんセンター長 荒金 尚子

がんは、遺伝子異常の蓄積で起こる病気です。従来の抗がん剤治療は、どの患者さんにもどの薬が効くのか予測することは困難でしたが、分子標的薬の臨床応用後、がん遺伝子異常を検査して効果予測を行うことが一部の薬剤で可能になりました。しかし、このような恩恵を受ける患者さんは、肺がんの約2割程度の他少数にとどまっており、多くの方には適応されません。

がんゲノムは、一度に100以上のがん遺伝子異常を検査し効果が期待できる薬剤をみつけることを目的とした医療です。対象患者さんは、標準的治療(それぞれのがんで有効性が確認され、保険で承認されている治療)が効かなくなった方です。現在がん治療を受けておられる患者さんは、まず主治医の先生とご相談し、がんゲノム医療を受けられるかお決めください。

詳細は、左記へご連絡ください。
佐賀大学医学部附属病院地域連携室
電話 095213413149



▲がんゲノム医療のイメージ

連携病院紹介

あじさいクリニック乳腺外科

院長 濱本 隆浩

【医院紹介】

乳腺診療に特化した無床診療所として平成23年に佐賀駅南口のビル1階に開設しました。クリニック名には、雨にうたれながら美しく色を変えて咲く花たちの集まりにしたいという思いを込めています。乳房検査では診療放射線技師2名とともにマンモグラフィ撮影・読影スキルを磨きつつ、昨年からは乳房用自動超音波検査(ABUS)を導入して多くの検査希望者に対応できるようにしました。CT・MRIやPET検査は高精度の先進機器を利用していただき診断精度を高めています。開院以来7年間で500例以上の乳がんを診断しており、これからは微力ながら佐賀県の乳がん早期発見に尽力していきたいと考えています。治療においては手術や薬物療法のみならず、リンパ浮腫治療やがんサロン、ピアサポート、患者会活動など、乳がん患者を多角的にサポートする試みにも積極的に取り組んでいます。

【本院との連携】

単科クリニックである当院では、県内外諸施設と多様な連携をさせていただくことで包括的がん診療を実現できるよう努めています。中でも佐賀大学医学部附属病院では出身医局の一般・消化器外科をはじめ、放射線科、脳神経外科、形成外科、呼吸器内科、循環器内科など多くの診療科の先生方に快く紹介をお願いいただいており、感謝の念に堪えません。今後も乳腺疾患を有する女性の診療におきまして、幅広く連携を深めさせていただきます。



▲濱本院長とスタッフの方々

12月10日(月)より

- 正面玄関の位置
- 送迎車の乗降場所
- バス停の位置(8日より)

が変わります。

このため、本院ご利用の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

